

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】平成 17 年 3 月 10 日 (2005.3.10)

【公開番号】特開 2001-334023 (P2001-334023A)

【公開日】平成 13 年 12 月 4 日 (2001.12.4)

【出願番号】特願 2000-159456 (P2000-159456)

【国際特許分類第 7 版】

A 6 3 F 7/02

【F I】

A 6 3 F 7/02 3 0 4 Z

【手続補正書】

【提出日】平成 16 年 4 月 5 日 (2004.4.5)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

遊技の進行を管理し、制御情報ならびに異常監視情報を出力する遊技制御装置と、
貯留タンク側より導かれる遊技球を遊技者側へ排出する機構を設けた排出装置と、
前記遊技制御装置からの制御情報ならびに異常監視情報に基づいて前記排出装置の遊技球
の排出を制御すると共に、異常時に遊技球の排出を中止する排出制御装置と、
遊技機の停電発生時に前記遊技制御装置における制御情報、異常監視情報を記憶保持可能
な記憶保持手段と、を備えた遊技機において、

前記遊技制御装置は、

特定のセンサによって異常が検出されると、該異常状態が所定時間続くか否かを監視タイ
マによって監視し、異常状態のまま監視タイマがタイムアップした場合に前記異常監視情
報を異常状態に確定するものであり、

前記監視タイマのカウント途中で停電が発生した場合には、異常確定前であっても前記異
常監視情報を異常確定状態に設定して前記記憶保持手段に記憶保持することを特徴とする
遊技機。

【請求項 2】

遊技の進行を管理し、制御情報ならびに異常監視情報を出力する遊技制御装置と、
貯留タンク側より導かれる遊技球を遊技者側へ排出する機構を設けた排出装置と、
前記遊技制御装置からの制御情報ならびに異常監視情報に基づいて前記排出装置の遊技球
の排出を制御すると共に、異常時に遊技球の排出を中止する排出制御装置と、
遊技機の停電発生時に前記遊技制御装置における制御情報、異常監視情報を記憶保持可能
な記憶保持手段と、を備えた遊技機において、

前記遊技制御装置は、

特定のセンサによって異常が検出されると、該異常状態が所定時間続くか否かを監視タイ
マによって監視し、異常状態のまま監視タイマがタイムアップした場合に前記異常監視情
報を異常状態に確定するものであり、

前記記憶保持手段により記憶保持された異常監視情報が、前記監視タイマのカウント途中
に停電が発生して異常確定前で記憶保持されたものであっても、停電復帰時に異常確定状
態に設定することを特徴とする遊技機。

【請求項 3】

前記遊技制御装置は、

停電復帰時に実行する異常監視の結果が確定するまでの間は、前記異常監視情報を異常確定状態のまま保持するようにし、前記異常監視の結果、前記異常監視情報が正常である場合には該異常確定状態をクリアするようにしたことを特徴とする請求項 1 または 2 に記載の遊技機。

【請求項 4】

前記異常監視情報は、排出装置より排出された遊技球のオーバーフロー状態を監視するためのオーバーフローセンサの監視情報または貯留タンク側と排出装置との間の球誘導シュート部の球切れを監視するためのシュート球切れセンサの監視情報の一方または両方を含むことを特徴とする請求項 1 ～ 3 のいずれか 1 つに記載の遊技機。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0005

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0005】

しかし、この場合次のような問題が懸念される。遊技制御装置等は特定のセンサにより異常を監視して、所定時間異常を検出すると、異常と判定すると共に、排出に関する異常の場合、遊技球の排出を中止する等の異常処理を行うようになっている。そのため、異常の確定前（検出途中）に停電した場合、停電から復帰したときは正常な状態で復帰するのに対して、その後直ぐに異常が確定して異常処理に入ることになる。このように、一旦正常な状態で復帰した後直ぐに異常処理に入るのでは、遊技者に違和感を与える。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0007

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0007】

【課題を解決するための手段】

第 1 の発明は、遊技の進行を管理し、制御情報ならびに異常監視情報を出力する遊技制御装置と、貯留タンク側より導かれる遊技球を遊技者側へ排出する機構を設けた排出装置と、前記遊技制御装置からの制御情報ならびに異常監視情報に基づいて前記排出装置の遊技球の排出を制御すると共に、異常時に遊技球の排出を中止する排出制御装置と、遊技機の停電発生時に前記遊技制御装置における制御情報、異常監視情報を記憶保持可能な記憶保持手段と、を備えた遊技機において、前記遊技制御装置は、特定のセンサによって異常が検出されると、該異常状態が所定時間続くか否かを監視タイマによって監視し、異常状態のまま監視タイマがタイムアップした場合に前記異常監視情報を異常状態に確定するものであり、前記監視タイマのカウント途中で停電が発生した場合には、異常確定前であっても前記異常監視情報を異常確定状態に設定して前記記憶保持手段に記憶保持する。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0008

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0008】

第 2 の発明は、遊技の進行を管理し、制御情報ならびに異常監視情報を出力する遊技制御装置と、貯留タンク側より導かれる遊技球を遊技者側へ排出する機構を設けた排出装置と、前記遊技制御装置からの制御情報ならびに異常監視情報に基づいて前記排出装置の遊技球の排出を制御すると共に、異常時に遊技球の排出を中止する排出制御装置と、遊技機の停電発生時に前記遊技制御装置における制御情報、異常監視情報を記憶保持可能な記憶保持手段と、を備えた遊技機において、前記遊技制御装置は、特定のセンサによって異常が

検出されると、該異常状態が所定時間続くか否かを監視タイマによって監視し、異常状態のまま監視タイマがタイムアップした場合に前記異常監視情報を異常状態に確定するものであり、前記記憶保持手段により記憶保持された異常監視情報が、前記監視タイマのカウント途中に停電が発生して異常確定前で記憶保持されたものであっても、停電復帰時に異常確定状態に設定する。

【手続補正５】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】０００９

【補正方法】変更

【補正の内容】

【０００９】

第３の発明は、第１、第２の発明において、前記遊技制御装置は、停電復帰時に実行する異常監視の結果が確定するまでの間は、前記異常監視情報を異常確定状態のまま保持するようにし、前記異常監視の結果、前記異常監視情報が正常である場合には該異常確定状態をクリアするようにした。

【手続補正６】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】００１０

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正７】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】００１１

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正８】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】００１２

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正９】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】００１３

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正１０】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】００１４

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正１１】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】００１５

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正 1 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 6

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正 1 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 7

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 1 7】

第 4 の発明は、第 1 ～ 第 3 の発明において、前記異常監視情報は、排出装置より排出された遊技球のオーバーフロー状態を監視するためのオーバーフローセンサの監視情報または貯留タンク側と排出装置との間の球誘導シュート部の球切れを監視するためのシュート球切れセンサの監視情報の一方または両方を含む。

【手続補正 1 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 8

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正 1 5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 9

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正 1 6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 0

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 2 0】

【発明の効果】

第 1、第 2 の発明では、監視タイマのカウント途中で停電が発生した場合、停電から復帰したときに、一旦正常な状態で復帰した後直ぐに異常状態が確定して異常処理に入ってしまうことを回避でき、遊技者を混乱させたり、遊技者に違和感を与えることはない。

【手続補正 1 7】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 2 1】

この場合、停電発生時に異常監視情報を異常確定状態に設定すれば、停電復帰時の処理負担を軽減できると共に、停電復帰後に速やかに異常、正常判定を行える。

また、停電復帰時に異常監視情報を異常確定状態に設定すれば、停電復帰時に停電前の状態を確認可能であり、停電前の異常状態について速やかに対応できる。

【手続補正 1 8】

【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】0022
【補正方法】削除
【補正の内容】

【手続補正19】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】0023
【補正方法】変更
【補正の内容】
【0023】

第3の発明では、停電から復帰した場合、異常状態にあるか正常状態にあるかを確認した後、正確に速やかに処理を再開することができる。

【手続補正20】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】0024
【補正方法】削除
【補正の内容】

【手続補正21】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】0025
【補正方法】削除
【補正の内容】

【手続補正22】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】0026
【補正方法】変更
【補正の内容】
【0026】

第4の発明では、排出球のオーバーフロー、球誘導シュート部の球切れを監視して、停電復帰時に的確に排出処理を再開することができる。

【手続補正23】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】0063
【補正方法】変更
【補正の内容】
【0063】

そのため、従来のように、オーバーフローあるいはシュートの球切れあるいはガラス枠開放の異常の確定前（センサON状態の監視タイマのカウント中）に停電した場合、停電から復帰したときに、一旦正常な状態で復帰した後直ぐにオーバーフローあるいはシュート球切れあるいはガラス枠開放の異常が確定して異常処理に入ってしまうことを回避でき、したがって遊技者を混乱させたり、遊技者に違和感を与えることはない。

【手続補正24】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】0064
【補正方法】変更
【補正の内容】
【0064】

この一方、異常監視に用いるオーバーフローセンサ 26、シュート球切れセンサ 27、ガラス枠開放センサ 28 の状態が、人為的あるいは物理的要因によって、停電前と停電復帰時とで変化した場合、例えば停電前にオーバーフロー流路のオーバーフローの異常が有り、停電中に遊技店の従業員の操作や遊技者の操作によってオーバーフロー状態が解消された場合、本例では、停電から復帰したときに排出制御装置 16 が異常処理を行うが、この異常処理は払出ユニット 14 の球の排出を中止するのみであり、表示器、ランプ、音声等による異常報知は行わないので、遊技者に不信感を与えることはない。

【手続補正 25】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0065

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0065】

そして、遊技制御装置 17 は、図 6 のように、オーバーフローセンサ 26、シュート球切れセンサ 27、ガラス枠開放センサ 28（図示省略）が OFF（物理状態 OFF）状態のまま該当する監視タイマがタイムアップすると、正常と判定して、異常確定状態に設定してある不正フラグ情報をクリア（論理状態 OFF）して、該当する正常フラグ情報を排出制御装置 16、表示制御装置 4 等へ送信し、排出制御装置 16 は、その正常フラグ情報に基づき該当する不正フラグ情報（異常確定状態）をクリアすると共に、この際 1 番長い監視タイマ（例えば、オーバーフローの監視タイマ）がタイムアップして、排出制御装置 16 が該当正常フラグ情報を受信すると、遊技球の排出条件（排出開始条件）が許可、つまり払出ユニット 14 の球の排出を許可する。